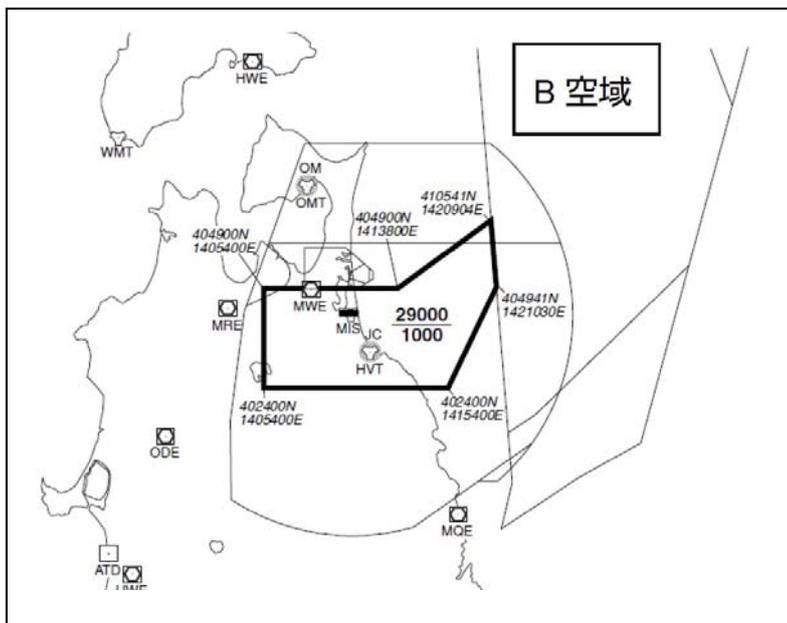


三沢基地に無人航空機『グローバルホーク』が配備①

<グローバルホークとは？>

2014年5月1日より、三沢飛行場（MSJ/RJSM）に高高度無人偵察機：グローバルホークが配備されました。グローバルホークは、アフガニスタンやイラクなどで偵察機として使用された無人航空機で、全幅は約40mとB737より大きくなっています。（右記事：5/25 河北新報より）



米軍三沢基地に到着した無人偵察機グローバルホーク（米軍三沢基地提供）

無人偵察機が三沢基地到着

米軍、初の日本配備

米軍が Guam で運用する無人偵察機グローバルホーク1機が24日、三沢市の米軍三沢基地に到着した。2機配備する計画で、残る1機は8日に飛来する。日本への配備は初めて。

東北防衛局によると、機体は午前6時5分に到着。情報は三沢市など周辺収集力の向上につなげる。

米軍は6月上旬に三沢基地で運用を始め、アジア太平洋地域で偵察活動を行う。2機とも Guam のアンダーセン米空軍基地を拠点としている。現地の台風シーズンを避けて運用効率を高め、情報収集力の向上につなげる。

三沢基地内での戦闘機より小さいという。

台風シーズンが終わる10月以降は現地に居る予定。東北防衛局は「今後情報が入り次第、提供すると話している。」

グローバルホークは主翼幅約40m、全長約14.5m。地上からの遠隔操作で飛行し、赤外線センサーで夜間や曇天候下でも目標を捕捉できる。攻撃能力はない。防衛省によると、グローバルホークの重大事故はこれまで起きておらず、騒音も三沢基地内の他の戦闘機より小さいという。

<三沢空港だけではなく、周辺上空を飛行する航空機に影響の可能性も>

飛行方式は IFR で、管制間隔は通常の IFR 機と同様の管制間隔で運用することになっており、原則として MSJ での民間定期便と競合しない時間に飛行するとしています。上記太線内 29000ft-10000ft の空域を使用して「B 空域」へ飛行し、「B 空域」で 50000ft まで上昇することです。また、上記の上限 29000ft の空域を飛行している場合は、MSJ の ATIS に “Unmanned aircraft operation are in progress” の用語が追加されることとなっています。しかし、ご存じの通り、この空域には MEA29000ft 以下の北海道方面への AIRWAY も多数存在するため、MSJ 離発着の航空機だけへの発信では不十分であり、上空を飛行する全ての航空機に情報を伝達すべきです。

(②へ続く)